



ハイナイト祈禱課題 2026年7月号

1. 闇の中でも変わらない神の約束を覚えて

イスラエルは今年、建国78年を迎えました。建国当時およそ80万人だった人口は、今年4月には約1024万人となり、約12.5倍に増加しました。日本の人口は、同じ78年間で約1.5倍の増加です。比較すると、イスラエルの人口増加がいかに驚異的であるかが分かります。

その人口増加の一因が、帰還です。イスラエルは、建国以来、幾度も国家存亡の危機に直面してきました。その中でも、毎年数万人ものユダヤ人が帰還を果たしています。私たちは「散らされた民が再び集められる」という神の約束の成就を今、この時代に目の当たりにしています。

イスラエルは、世界で唯一、ユダヤ人が誇りと尊厳を持って生きることのできる国です。安心して神が命じられたユダヤの祭りを祝い、キッパをかぶってシナゴグに行くことができます。一方、離散の地に暮らすユダヤ人たちにとって、ユダヤ人としてのアイデンティティーを公にすることは危険と隣り合わせです。

オーストラリアは、これまで「ユダヤ人が安心して住める国」と言われてきました。しかし近年、ユダヤ人コミュニティを狙った放火や襲撃事件が相次いでいます。昨年12月にはシドニーのボンダイビーチで、ユダヤ人を狙った銃撃テロ事件によって15名が犠牲となり、オーストラリア史上最悪のテロ事件となりました。オーストラリアのユダヤ人はこう語ります。「私たち家族は、もうオーストラリアに住み続けたいとは思いません

ん。ここでは安全だと感じられないのです」

反ユダヤ主義の嵐は世界各地で起こっています。その中で、クリスチャンがイスラエルと共に立ち続けています。かつてホロコーストの時代、キリスト教会の多くが沈黙し、中には迫害に加担した人々もいました。しかし、今、多くのユダヤ人は、以前とは違うと感じています。世界がどんなにイスラエルを憎んでも、イスラエルと共に立ち続けるクリスチャンの愛によって、ユダヤ人の心は慰められ、両者の間に「真の友」の関係が築かれています。

神さまは、ご自身の民に永遠の愛を約束されています。この反ユダヤ主義の闇さえも、主は帰還を後押しする一因として、ご自身のご計画のために用いることができるお方です。神の約束は決して変わることなく、今も成就し続けています。この光と闇の戦いの中であって、私たちはみことばに立ち、祈りの務めを果たしてまいりましょう。



世界がイスラエルを憎んでも、イスラエルと共に立ち続けるクリスチャンの愛によって、ユダヤ人の心は慰められ「真の友」の関係が築かれています
Photo by Bridgesforpeace.com

主は遠くから私に現れた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。再びわたしはあなたを建て直し、あなたは建て直される。(エレミヤ31:3~4a)

- ①世界的に高まる反ユダヤの嵐の中で、離散社会のユダヤ人が守られるとともに、ユダヤ人の帰還が進むように。
- ②クリスチャンが、光と闇の戦いの中であって、堅く神のみことばに立って、イスラエルをとりなすことができるように。
- ③イスラエルを通して、多くの方がご自身の約束に忠実な神を知ることができるように。

2. 祈りの継承—イスラエルのために祈り続けた日本を覚えて

昭和初期、イスラエルの再建を信じ、祈り続けた信仰の先輩方がいました。当時、世界は戦争の足音が近付き、日本も軍国化へ向かう激動の時代でした。そんな中で、ユダヤ人に会ったこともな

い日本のクリスチャンたちは、みことばの実現を信じ、イスラエル回復のためにズボンが擦り切れるまで祈り続けました。彼らは後に、イスラエル再建という、神が聖書の約束を成就される奇跡の

瞬間を目撃したのです。その篤き祈りを、100年後の私たちも受け継いでいます。

イスラエルの祝福を祈ることは、日本の祝福につながります。私たちは、日本の人々がイエスさまに出会い、真の命を得ることを切に願っています。そして、日本という国が真の神をおそれ、神を愛し、神の御心を行う国となること。——これこそが、私たちの願う祝福です。神の約束を信じて祈

り続けた日本の先輩方の信仰を受け継ぎ、私たちもまた、みことばを握って祈り続けてまいりましょう。

昭和初期に祈り続けた方々の証言をご覧ください。

映像はこちら ▶▶▶



<https://youtu.be/EFS7AFgizyw>



「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」(創世12:3)

- ① イスラエルを愛しとりなす祈りが、これからも日本の教会で継承されていくように。
- ② 主が私たちの祈りを用いてくださり、主のご計画を実現してくださるよう。
- ③ 日本にリバイバルと霊的回復がもたらされ、日本が真の神と共に歩む国となるように。

3. 沖縄のための祈り

30周年の感謝と再出発の集会を、沖縄でもちたい。この思いを主からいただいたきっかけとなった場所があります。沖縄の読谷村にある、やちむんの里の焼物の工房、北窯です。昨年1月に訪問し、13段に連なる登り窯を見せていただきました。焼物を焼く、13段に連なる窯全体を熱するために、最初の火をおこす焚口で20時間掛けて火が熱せられます。焚口で熱く熱く燃やされた火は、4日掛けて13段の窯全体を1280度まで熱します。沖縄の皆さんの祈りは、焚口の火と同じです。30年前、イスラエルのために祈るクリスチャンはごくわずかだった時から、沖縄で多くの人々が神さまのイスラエルへの愛とご計画に 응답されました。時が良くても悪くても祈りを絶やさず、熱く燃やし続けてくださった。その祈りの火は、今や全国に広がっています。終りの時に向かって、時計の針は進んでいます。聖書の真理、価値観を手放し、この世の価値観に妥協させよう

とする力が、ますます強く働いています。神が愛するイスラエルと神が愛する私たち教会との間に、亀裂をもたらし、また教会の中でも分裂をもたらそうとするサタンは、今激しく働いています。私たちはこの激しい霊の戦いの最前線に立っています。今こそ神に、自分自身を明け渡し、神の心でとりなす祈りを神さまが求めておられます。日本中で、そのような祈りが立ち上がっていくため、焚口の火が必要です。



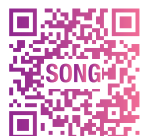
沖縄・やちむんの里「北窯」の登り窯
13段の窯全体を熱するため、焚口で20時間火を焚き続ける

火は絶えず祭壇の上で燃え続けさせなければならない。消してはならない。(レビ6:13)

- ① 主があらゆる惑わしを打ち破ってくださり、力と勇気を与えてくださるよう。
- ② イスラエルを愛する祈りが、再び沖縄で熱く燃やされるよう。
- ③ その祈りが、日本全体に祈りの火をさらに強くおこしていくよう。

「ハイレイトソング」▶▶▶

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」▶▶▶

月刊オーブライヴ誌「いのちの祈り」から
ピックアップをお届けします(毎週月曜日)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイレイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org